

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23220011	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	マウスを用いたゲノム高度可塑性因子の同定とその応用	研究代表者 (所属・職)	小倉 淳郎（理化学研究所・バイオリソースセンター・室長）

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、129系統が持つ高度可塑性因子を同定し、その成果を他動物種でのiPS細胞や体細胞クローン動物作成技術に応用しようとするものである。順遺伝学的手法でその因子を含むゲノム領域4カ所の絞り込みを果たし、概ね順調に進展している。応用への道筋が見えているとは言えないが、正確なゲノムの再プログラム化機構の解明は、将来の安全な再生医療開発の観点でも極めて重要な課題であり、因子の同定と基本原理の理解を進展させることができれば、十分な成果となるであろう。拙速に応用成果を求めず、堅実な研究の進展を目指していただきたい。研究グループの強みを活かした独創性の高い研究であり、成功の可能性は高いと期待できる。